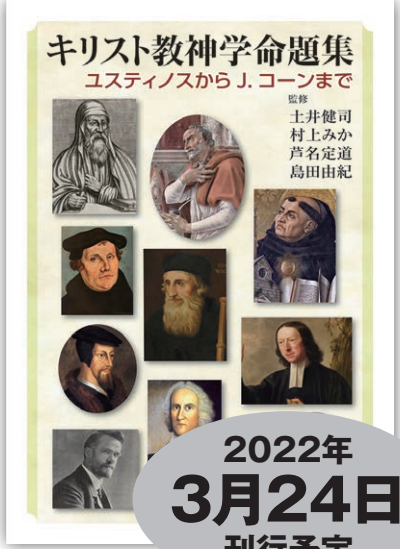
◆2022年3月の新刊　　日本キリスト教団出版局

キリスト教神学命題集

ユスティノスからJ.コーンまで



2022年
3月24日
刊行予定

土井健司（どいけんじ）／村上みか（むらかみ）／芦名定道（あしなさだみち）／島田由紀（しまだゆき）　監修

神学のエッセンスを表現した49の「命題」を時代ごとに整理、それぞれの命題を生み出した神学者の生涯、時代的・思想的文脈、その後の影響をコンパクトに解説。各分野の専門家36人による解説は通俗的な理解を改めさせられ、初学者でなくても目から鱗の一冊。

A5判・並製・256頁・定価3,520円（本体3,200円＋税）

ISBN978-4-8184-1104-3　C0016

取り上げる神学者と命題

第一部　古代・中世
1　ロゴス・キリスト論（ユスティノス）
2　神的感覚と聖霊論（オリゲネス）
3　三位一体論、受肉論（アタナシオス）
4　否定神学（擬ディオニュシオス・アレオパギテース）
5　内的超越の思想（アウグスティヌス）
6　ドナトゥス派論争（アウグスティヌス）
7　自己愛と神への愛（アウグスティヌス
8　ペラギウス主義論争（アウグスティヌス）
9　神の存在論証（アンセルムス）
10　味覚体験としての愛（クレルヴォーのベルナルドゥス）
11　恩寵と自然（トマス・アクィナス）
12　聖書の四重の意味（トマス・アクィナス）
13　ドイツ神秘主義（マイスター・エックハルト）
14　神の全能性（オッカムのウィリアム）

第二部　宗教改革・近世
1　聖書中心主義と教会批判（J.ウィクリフ）
2　キリストの哲学（D.エラスムス）
3　キリスト者の自由（M.ルター）
4　神の義と人間の義（H.ツヴィングリ）
5　神認識と人間認識（J.カルヴァン）
6　信仰を支える外的手段としての教会（J.カルヴァン）
7　聖餐論争（M.ブツァー）
8　聖霊経験と終末的社会変革（T.ミュンツァー）
9　初代教会の復興と現世からの隔離（M.ザトラー）
10　聖書と伝承（トリエント公会議の教令）
11　聖書のみ（『和協信条』）
12　自発的契約によるキリストの教会（R.ブラウン）

第三部　近代・現代
1　キリスト者の完全（J.ウェスレー）
2　ドイツ敬虔主義（P.J.シュペーナー）
3　絶対的依存感情（F.シュライアマハー）
4　福音のギリシア化（A.v.ハルナック）
5　キリスト教信仰と歴史学的方法（E.トレルチ）
6　生への畏敬の倫理（A.シュヴァイツァー）
7　神の人間との無限の質的差異（K.バルト）
8　新約聖書神学の前提としてのケリュグマ（R.ブルトマン）
9　実存的不安と勇気（P.ティリッヒ）
10　高価な恵みとキリストへの服従（D.ボンヘッファー）
11　キリスト教的終末論と希望（J.モルトマン）
12　神学の学的基礎を求めて（W.パネンベルク）
13　宗教多元主義（J.ヒック）
14　人間の超越と神の自己譲与（K.ラーナー）
15　世界倫理と人間性（H.キュング）

第四部　北米・倫理
1　神の流出としての創造（J.エドワーズ）
2　人間の根源的自由（R.ニーバー）
3　歴史的信仰から出発する啓示の神学（H.R.ニーバー）
4　神の国の民の形成（S.ハワーワス）
5　社会の福音化（W.ラウシェンブッシュ）
6　フェミニスト神学（E.シュスラー・フィオレンツァ）
7　黒人神学（J.コーン）
8　解放の神学（G.グティエレス）